

『奈良×探究』

～1300年の歴史を感じながら自分たちの未来を描いていこう～

活用の手引き

■本書のコンセプト

1300年の歴史を持つ奈良では、これまでの伝統の継承と、それらと調和をさせながら新しいものを残していこうとする取り組みを見ることができます。本書はそれらを探究的な視点で見つめることをサポートしながら、奈良の教育旅行での学びを深めてもらおうとするものです。

奈良市にある寺社や自然、そこで文化を育んできた人々にスポットライトを当てて、「歴史」「文化」「景観」という切り口を意識させるつくりになっています。これらはSDGsにもおのずとつながっていくものです。

また、奈良で得た学びを自地域に持ち帰り、同様の視点で自地域の魅力や強みを見つめ、それを維持する取り組みに意識を向けようというのが本書のゴールです。

生徒には旅行として楽しみながらも、自分たちの未来につながる学びを得てもらえれば幸いです。

持続する魅力を体感し、これからの地域の姿を考える

現在につながる
奈良市の古を
感じる



未来に続く奈良市の姿・あり方を
想像する

これまでの1300年

これからの1300年



奈良市での学びを基に、
自分たちの地域の魅力の持続可能性
について考える

授業案

事前学習①

- [5分] P.2-3で奈良市の概要をつかむ
- [15分] 事前学習動画を見る（宿題でも可）
- [10分] P.4-5で学習のねらいをつかむ
- [20分] P.6-17で「なら探究テーマ」を決める
（事前学習動画を宿題にする場合は35分で実施）

事前学習②

- [30分] P.18-19で自分の「なら探究テーマ」について事前に深掘りをする
 - ①ウェビングマップで想像を広げる
 - ②ハッシュタグでイメージを言語化
 - ③事前調査を行う
 - ④事前学習時点での印象の変化を言語化
- [10分] P.20-23の地図を見て行程を決める
 - 時代とともに変遷する様子を考察
 - 訪問スポット選びの参考にする
- [10分] P.24の《旅行前》に感じたことを記入する（宿題も可）
 - 4つの観点で地図で気付いたことをまとめておく
 - 実際に街歩きした時に確かめてみる

現地学習

- P.20-23を見ながら街探索する
 - P.24-25を使って気付いたことなどをメモしておく
 - 事前に書いた4つの観点について確かめてみる
 - 事後学習に備えて気付いたことをメモする
- ※宿でパンフレットの切り抜きなどを貼っても良い

事後学習①

- [50分] P.26-27で奈良市での学びの総仕上げを行う
 - ①奈良市での印象や感想の言語化
 - ②伝統的なものと新しいものを列挙
 - ③それらの掛け合わせを考える
 - ④キャッチコピーで奈良市を表現してみる
- ※余裕があれば発展ワークも取り組む

事後学習②

- [50分] P.28-29に取り組む
 - ①奈良市と同じ「歴史」「文化」「景観」の切り口で自地域を見つめてみる
 - ②見出した魅力/強みについて深める
 - ③見出した課題/弱みについて深める
 - ④②と③を踏まえて、未来に向けてやるべきこと、自分が今できることを宣言

発展ワーク（さらに学びを深めたい場合にご活用ください）

- [50分] P.30-31に取り組む
 - 「5つのP」の解説を読む
 - 奈良市で見てきた「なら探究テーマ」を「5つのP」で整理してみる
 - さらにそれをSDGs17のゴールと結び付けてみる



<<< 各ワークのねらい解説 >>>

事前学習 ①



■奈良市の概要をつかむ

これから訪れる奈良という土地について生徒に伝えます。教科書に出てくる奈良は古都としての歴史的な内容が多いと思いますので、それだけではなく、今も進化し続けており、新たな魅力が生まれつつある「今と昔がミックスした街」であることを伝え、旅行前のワクワクを刺激してあげてください。しかまるくと学べる事前学習動画も用意しているので、ぜひご活用ください。



■本書の学習のねらいをつかむ

本書の学習コンセプトを説明し、生徒に学びの自覚を促します。テーマカテゴリとして「建造物」と「人」にフォーカスを当て、さらに「歴史」「文化」「景観」という切り口を挙げています。御校の方針に従ってご活用ください。本書では、どの切り口を取り上げたかにかかわらず、探究的な学びができるように構成しています。（「切り口」はあくまで探究的な学びを推進するためのヒントになるものなので、それ自体を学ぶことを想定したワークは用意しておりません）

事前学習 ②



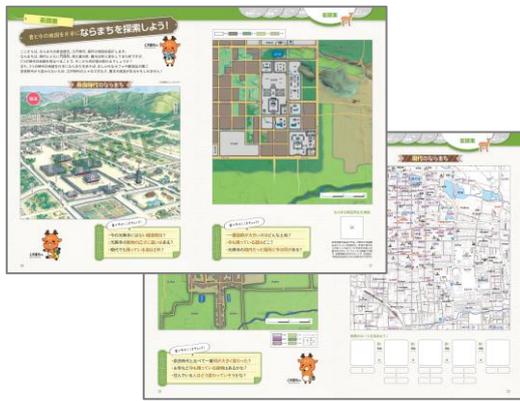
■興味のある「なら探究テーマ」を選ぶ

奈良の「建造物」「人物」について紹介したページから、自分の興味があるテーマを選びます。教科書だけではわからないような「ならトピック」も併せて紹介し、生徒の興味を引き出すことを狙っています。時間が多く取れない場合はすべての解説を読むのではなく、タイトルなどで興味を持ったものをいくつかピックアップしてから解説を読んで決めるという進め方でも構いません。



■コンセプトとキーワードを決める

①選んだ「なら探究テーマ」から発想を広げるためにウェビングマップ作成を行います。②そこで出てきたキーワードを見ながらハッシュタグをつけてみます。こうすることで、事前調査のきっかけを作れるので、進めやすくなります。③さらに事前調査で掘り下げたのち、④その体験の中で感じた疑問を言語化します。それをもって現地を訪れると、探究的な視点のヒントになるでしょう。



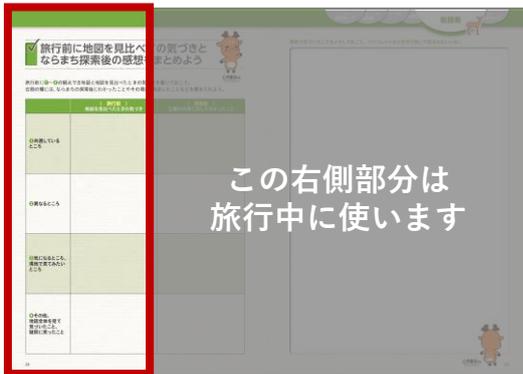
■地図を使って歴史を体感する

観光協会が作成した再生古地図および現代地図を使いながら、現地を訪れる前に時代の変遷をながめまします。1300年の歴史がある街だからこそ、各時代ごとの特徴が見えてくるでしょう。

そして、ここまでの「なら探究テーマ」と事前調査、地図の変遷などの学習を踏まえて、P.23では現地で訪れるスポットを決めます。行程表に記入をして行動計画を立ててください。

(以下は、余裕があれば取り組んでください)

現地でも使うワークシート (P.24) に、訪問前に地図を見て感じたことを記入しておきます。実際に訪れた際との違いを明らかにすることで、理解が進みます。



■現地で気になったことをメモする

P.25に現地探索中に気付いたことをメモしていきます。パンフレットなどをもらっておいて、宿に戻ってから切り抜いて貼るなどしてもよいでしょう。探索後は、P.24を使ってそれぞれの観点で振り返ってみます。＜旅行前＞にも記述してある場合は、訪れる前後での変化を見比べることで、変容の自覚化として学びの一つになります。



■奈良市での学びを振り返る

① 今回の旅行で向き合った「なら探究テーマ」を記入して、訪れてみての感想や印象の変化などを言語化します。② さらに、奈良市で見てきたものを「歴史あるもの」と「新しいもの」という観点で列挙します。ここではキーワードをたくさん挙げることを意識してください。③ 挙げたキーワードからそれぞれ1つずつ選び、欄に記入します。そして、選んだ2つを掛け合わせることで生まれそうなことを言語化します。ここでは文章で説明してください。④ 最後に、ここまでの活動を踏まえて「奈良らしさ」を言語化してキャッチコピーにしてみましょう。



昨今は地方創生が求められており、古きものと新しいものを掛け合わせて、新たな価値創造を目指すことが増えています (古民家カフェやお寺での音楽フェスなど)。これは、「新結合」と言われるイノベーションにも通じる考え方ですので、古きよきものが多い奈良での探究の集大成として取り組んでみてください。

事後学習②

自分ごととして考えてみよう

1 奈良を学ぶキーワードを挙げて、そのキーワードをめぐって自分ごととして考えてみよう。キーワードをめぐって自分ごととして考えるときは、自分ごととして考えるキーワードを挙げて、そのキーワードをめぐって自分ごととして考える。

歴史	
文化	
景観	

2 挙げたキーワードを眺めながら、そのキーワードをめぐって自分ごととして考える。

3 挙げたキーワードを眺めながら、そのキーワードをめぐって自分ごととして考える。

4 挙げたキーワードを眺めながら、そのキーワードをめぐって自分ごととして考える。

■ 自地域に奈良の学びを生かす

- 1 奈良を見つめてきたのと同じように、「歴史」「文化」「景観」という切り口で、自地域の“魅力や強み”“課題や弱み”を見つめてみましょう。思いつくキーワードをたくさん記入してください。
- 2 挙げたキーワードを眺めながら“魅力や強み”を文章として言語化します。
- 3 でも、挙げたキーワードを眺めながら“課題や弱み”を文章として言語化します。
- 4 それらをもとにして、“魅力や強み”を維持していくためにどうするといいか、また今の自分ができることが何か、を考えて言語化します。このプロセスを通じて、奈良での学びを自分事化していくことを狙っています。

発展学習

発展 奈良市での学びを「5つのP」で整理しよう

奈良市のSDGsを感じよう

SDGs 5つのPを知ろう

SDGs「5つのP」で整理しよう

奈良市での学びを「5つのP」で整理しよう

People (人)	
Prosperity (豊かさ)	
Planet (地球)	
Peace (平和)	
Partnership (パートナーシップ)	

■ [発展] SDGsの「5つのP」で奈良市を見つめる

- さらに学びを深めたい場合は、P.30-31を使ってSDGs「5つのP」を題材に、奈良市を見つめてみましょう。今と昔がミックスした奈良市には、SDGsにつながる学びがたくさんあります。それらを「5つのP」で整理することで、SDGsが体験を伴った実感として生徒の中に浸透していくことを狙っています。